

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

本年度のタイ CIS(カップリングインターンシップ)を、12月13日-12月26日の期間にタイ(バンコク)で開催しました。大阪大学の外国語学部2名と工学研究科2名、カセサート大の人文科学部2名と工学部2名の計8名の学生が参加しました。現地では2日間(12月14日、12月15日)の事前研修を行い、日本企業の理念やコミュニケーションの指導(講師:言語文化研究科の横江特任教授、村上准教授)、溶接知識の教育(VTR)、問題解決の実習などを学生は受講しました。16日から5日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。実習先の OTC ダイヘン・アジア(OTCDA)社(ダイヘンの子会社)で、会社説明(業務内容、安全管理、品質管理)を受けると共に、工場見学、工場実習(自動旋盤、射出成形、ロボット、溶接)、CISの実習テーマに関する幹部やスタッフとのインタビューなどを行いました。

た。12月21日には、ラヨーンで営業倉庫や客先の見学もしました。テーマとして「男女雇用機会均等」を設定し、連日グループ毎の協議を重ねて、その課題と対策を探りました。最終日の12月25日に、カセサート大で学生はテーマの検討結果についてプレゼンテーションを行いました。最終報告会には、OTCDAの川原社長、前田副社長、カセサート大のPeerayuth工学部長、大阪大学の横江特任教授、村上准教授、菅客員教授ら計31名の参加があり、学生の提案に対して活発な議論が行われました。OTCDA幹部よりは、「今後の参考になる有益な提案が出ている」とのコメントがありました。学生からは「CISに参加して、コミュニケーション力や相互理解力の向上の面で役立った」との感想が出ていました。異文化・多言語環境下のインターンシップとして、大変価値のある活動でした。

